

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200962		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	ハイムガーデン東川口		
所在地	埼玉県川口市戸塚南2-8-9		
自己評価作成日	令和3年6月12日	評価結果市町村受理日	令和3年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

悪天候時以外は、下肢筋力の維持や気分転換を兼ねて、近隣への散歩へ出かけている。また、一人ひとりの希望に沿った外出支援なども可能な限り行っている。
 外出自粛となり、ご家族と会える機会も減っているが、リモートによる面会や、制限を設けての面会を実施し、関係が希薄にならないような工夫をしている。月に何度か更新しているブログでは、日常の様子を中心に写真を添付して記事を作成し、イベントなどの行事だけでなく、普段の様子が伝わるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ 畑仕事を楽しみたい、動物などの模型づくりをしたいなど、一人ひとりの思いを大切に、利用者が笑顔で穏やかに過ごされるよう支援に取り組まれている。
- ・ 運営推進会議は、コロナ禍の中、会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見を頂き、事業所運営やサービス向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。
- ・ 目標達成計画の達成状況についても、定期訓練では夜間時の火災発生を想定し、初期消火など基本訓練に取り組まれているほか、風水害対策や事業所特性を踏まえた避難手法の検討をされるなど取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの心得を掲げ、事業所内にそれを掲示し、常に心得を意識してお客様にサービスを提供できるよう心掛けている。	「私たちは、お客様お一人おひとりに寄り添い、その人らしい生活ができるように真心あるサービスを提供します」などの理念のもと、利用者がその人らしく、笑顔で健やかな暮らしを過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、地域交流を図ることは困難な状況だが、ブログによる情報配信と、施設外にパンフレットを設置し、地域の方に認識してもらえるよう働きかけている。	現在は、コロナ禍の中、自粛をされているが、外出の際には地域の方と挨拶やおしゃべりを交わされたり、地域の祭りや敬老会に出かけられるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる支援に積極的に取り組まれています。地域の方々と利用者との交流の機会を持ち、地域に開かれた事業所としての理解を更に深める取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、訪問マッサージ事業者による体操教室を地域に向けて開催していたが、現在は実績といえるものはない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、書面による開催となっている。市役所、お客様のご家族、地域包括センター、オーナー様などからご意見・ご要望を伺っている。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての評価や意見をいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営面での質問や、困難ケースの相談など、市町村担当者や地域包括支援センター担当者とは連携を図っている。	行政担当者とは報告・連絡・相談時や困難事例の受け入れ時にコミュニケーションを図られている。また、マスク・ゴム手袋・アルコール消毒液などを頂くなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の活動を継続しながら、定期的に研修などを実施し、全職員が身体拘束をしないケアについて理解を深めている。	法人研修や身体拘束廃止委員会が定期的に行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を全職員に対して実施し、日常のケアから何が虐待に当たるのか？を理解し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時・解約時は、お客様がご納得されるまで、疑問・質問に答えている。また、内容の説明については、専門用語は使わず、丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は、運営推進会議への参加を促していたが、書面開催となった現在も、面会や電話連絡の際に、ご意見・ご要望を伺うようにしている。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族とは面会時や連絡時に意見・要望を聴き取られ、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全体会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設け、職員で話し合い、現場でのケアや業務に反映できるようにしている。また、必要があれば個別での相談も随時受けるようにしている。	定例会議などで意見・提案を聴きとられるほか、発言し易い職場環境がつけられ、食事やおやつ作り企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、その上席は常に職場環境について相談できる関係性にある。職員個々の状況把握については、半期に一度行っている自己評価制度なども活用しながら、職場環境の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、外部研修を受ける機会は減っているが、リモートによる研修や動画による研修を行い、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の開催が行われなくなった現状で、地域の同業者との交流は図れていない。法人内での相互訪問は継続しており、互いの良いところを取り入れながら、より良いサービスの提供ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実地調査の際、ご本人やご家族様からお話を伺い、どのようなニーズがあるのか、不安に思う事など、その気持ちに寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご要望や、不安に耳を傾けることはもちろん、サービス開始後に起こりうる様々な事をお伝えすることで、ご家族様との協力関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様からよくお話を伺い、今必要としている支援を見極められるよう努めている。 また、どんなサービスを利用できるのか、可能な限りお話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでも、共同生活の場であるという事を忘れず、ご本人様ができる事は可能な限り、職員とともに行っていただくようにしている。(家事一般など)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のご様子や、ご家族様にご協力いただきたいことなどは面会時やお電話で伝えるようにしている。逆に、こちらへのご要望がある場合には、話を伺い、どのようなケアをしていくか相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援は、現状行えないが、面会については制限を設けながら、万全の感染予防対策を講じて実施し、関係の継続に努めている。	最近では自粛されているが、友人・親族の面会や電話のやり取りのほか、地域の神社での初詣、近くのコンビニやホームセンターでの買物を楽しまれるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を同席にしたり、苦手な方とは席を離したり、その時の状況により柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談があった場合などは必要に応じてフォローや支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に必ず希望・要望を聞き、ケアプランに反映させるようにしている。意思疎通が困難な場合は、複数の職員で多角的にご本人様の状態を考え、ご本人様本位になるよう検討している。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に寄り添うことで、思いや意向を把握している。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取るほか、職員間での話し合いを持ち、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際はもちろんのこと、入居後の面会時などご家族様や担当ケアマネからお話を伺い、入居前の生活歴や、仕事、生活環境などを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の記入をはじめ、本人の生活歴からできそうな事(簡単な家事など)と一緒にやっている。また、レク(脳トレ、ぬりえなど)を通じて、本人の有する能力を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、関係各所との意見交換を行っている。また、その議事録を残し、介護計画の作成に活かしている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさと思いを大切に介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入を実施している。細かい心身の様子が伝わるように、記録の記載には気をつけている。特に重要な事項については、申し送りノートや業務日誌等でも共有し、計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は、個別外出の支援をしていたが、現在は自粛している。必要に応じて、訪問マッサージなどのサービスを行ったり、精神科往診、歯科受診も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、往診医や訪問看護ステーションと連携を図り、健康管理を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診と、月1回の精神科往診を実施している。必要に応じて、専門医への受診も行っている。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とするも、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないが、週1回の訪問看護サービスを実施している。健康面での不安などを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、診療情報提供書を必ず出してもらうようにし、かかりつけ医との連携を図れるようにしている。また、入院中はご本人様の様子を医療ソーシャルワーカーや、看護師から聞き、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての指針は、契約時にご本人・ご家族様に説明し、意思の確認を行っている。また、終末期に移行する段階で、ご本人・ご家族様の意思を再確認し、医療と連携しながらチームでの支援を行っている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、支援体制を整え、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練実施時や、社内研修の中に緊急時の対応に関する項目を掲げる事で、定期的に応急手当などの訓練を行っている。AEDの使用方法についても研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川口市のハザードマップや防災ハンドブックを参考に、研修を実施している。水害、地震など災害の種類によって、自分たちがどう動いたら良いのかなど、知識を身に付けている。また、マニュアルやBCPの作成に取り組んでいる。	定期訓練では、夜間時に1階居室からの火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、風水害対策や事業所特性を踏まえた避難手法の検討など、体制整備に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナーや接遇の研修、虐待防止に関する研修などで、プライバシーや尊厳についての理解を深めている。スタッフ間でも相互監視をし、お客様の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを意識している。	話題提供の際には、利用者に寂しい思いをさせないよう心がけるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から、ご本人様の希望や要望を汲み取ることができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の場であることを忘れることなく、可能な限り一人ひとりのペースで過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意見を尊重しつつ、季節感を考慮した服装になるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に、簡単な調理や、盛り付け、食器洗浄などをスタッフとともにやっている。 また、ご希望のあったメニューを一緒に作ることもやっている。	利用者の個々の状態に合わせて、盛り付けや後片付けなど、職員と共に行なっている。催事には好物の刺身が供されたり、畑で収穫した胡瓜やインゲンなどが酢の物や和え物として提供されるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については、記録をつけてチェックしている。栄養バランスについては、外部の食材業者に発注している為、業者の管理栄養士が考えた献立を提供している。食事量や形態については、ご本人様の状態に応じて、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。夜間は義歯洗浄剤を使って洗浄をしている。必要に応じて、個別に見守りや介助を行っている。また、訪問歯科医師による助言もいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握の為、1人1人の排泄時間をチェック表に記載している。時間を見てのトイレ誘導を実施し、自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、失敗防止やオムツ類の使用量削減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、冷水や牛乳を飲むよう勧めたり、歩いて腸を動かすなどの働きかけをしている。また、往診医に相談し、薬の調整などを依頼している。また、訪問看護師に協力を仰ぎ、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	集団生活である事や、ご本人様の体調等を考慮した上で、出来る限り個別での対応を行っている。	利用者の状態に合わせたシャワー浴を含め、希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、誘導のタイミングや日を替えるなど、工夫し支援をされている。また、入浴剤や柚子湯など季節湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温等の環境整備を十分に行ったり、昼夜逆転傾向の場合は日中に眠くならないような働きかけをするなどの支援を行っている。リネンの交換も適宜行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬の情報がすぐに確認できるよう、服薬管理マニュアルの巻末に薬の名前、効果、注意点などをまとめたものを添付して、随時更新している。また、変化が見受けられた場合は往診医と連携し、量の調整などをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持てるよう、自身の部屋は自分で掃除したり、洗濯物を干したり、スタッフとともに自分で出来る事を行っている。また、散歩や外気浴による気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴は天候不良などが無い限りは実施している。普段いけないような場所も、行事として外出したり、ご家族と出かけたりしていたが、コロナ禍の為、外出は実施できていない。	現状、外出は自粛しているもの、事業所周辺での散歩、前庭で外気浴や畑仕事など楽しまれている。また、近くの神社に出かけたり、家族の協力を得て、外出をされるなど、利用者の希望を大切にしたい支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の観点から、金銭の所持はしてはもらっていない。ご本人様とともに買い物に行き、金銭を使うことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から希望があった際は、可能な限り支援している。携帯電話については、特に決まりはないので、自由にかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、季節感を感じる装飾をスタッフとともに作成している。掲示物等についても、刺激的な色などを使わないよう配慮し、心地よく過ごせるよう工夫している。	共用スペースには、青空に咲くひまわりの貼り絵や笹飾りが飾られ、季節感ある装飾となっている。また、通路やリビングにはソファや長椅子が置かれ、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子などを設置し、1人1人が好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などの持ち込みは可能なので、使い慣れたもの、好みの物を使っていただき、ご本人様の居心地が良いように工夫している。	馴染みの寝具、テレビや仏壇が持ち込まれているほか、赤べこや鶴など創作模型が飾られ、居心地良く過ごされるよう工夫をされている。また、定期的に清掃とリネン交換が行われ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所、トイレの場所など、案内板を作り、分かりやすくしている。クローゼット・引き出し等にはラベリングをしている。		

(別紙4(2))

事業所名:ハイムガーデン東川口

目標達成計画

作成日: 令和 3年 7月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	<ul style="list-style-type: none">・地域との交流が思うように図れていない。・施設の存在が地域の方に周知されていない。	<ul style="list-style-type: none">・地域住民の方々に施設の存在を知ってもらう。	<ul style="list-style-type: none">・以前実施していた、訪問マッサージ主催の体操教室を再開する。・近所のコンビニへ買い物に行ったり、公園へ散歩に行く事で、顔を知ってもらう。・こども110番の家に登録する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。